

創立100周年記念事業、協力に感謝 ～11月17日 記念会解散～

菊地 芳 朗 (GS34)



今年は集中豪雨など
天災の多い年となりました。
地球温暖化によるもの
でしょうか。

災害に遭われました皆様
には、心からお見舞い申
上げます。

9月1日は「防災の日」
ですが、仙台において松
富英夫先生を講師に迎

えて「東日本大震災から学ぶ津波の想定と対策」
を演題として「秋田大学工学資源学部仙台セミ
ナー」を行いました。会員以外の方も含めて多く
の参加者から活発な質問もあり、関心の深さを感じ
ました。

このセミナーは、平成16年に大学が法人化され、
これからの大学は社会に今まで以上に情報を発信
することが必要と、北光会もお手伝いして始めま
した。

既に、東京で16回、大阪で6回行われ、この度仙
台で初めて行った次第です。東北支部の皆様には
ご協力を頂き、お陰で無事セミナーを終える事が
出来ました。お礼申し上げます。

セミナーに先立ち、昨年見ました津波の被害跡
を再度見てきました。田圃に生い茂った草は刈り
取られ、点在しておりました自動車やタンクなど
の流出物は撤去されておりました。避難していた
地域には一部の住民の生活も始まっておりまし
た。しかし、全体から見ると復旧・復興が思った
より進んでいないと感じました。

8月29日、政府の有識者会議が「南海トラフ地
震が発生すると最悪のケースで32万人死亡」と発
表しました。これから如何に「減災」していくかが
求められることになるでしょう。

創立100周年記念会の募金ですが、8月31日現在、
募資金額は4,567名(件)総額2億561万円で、
その内訳は

企 業：	264 件	5,973 万円
篤 志 家：	22 名	153 万円
教 職 員：	182 名	1,140 万円
学部後援会：	15 回	3,512 万円
北 光 会：	4,084 名	9,783 万円

であります。

創立100周年記念事業は、旧校舎を模した建物
も10月末には完成し、二階の一角に北光会が人居
することになりました。

この様なことから来る11月17日に記念会を解
散することになりました。多くの会員の皆様から
頂きましたご協力に心から感謝申し上げます。

記念会解散と時を同じくし、九州支部の角銅立
身氏(BS23)所有の世界記憶遺産、山本作兵衛さん
の炭鉱画展示会を鉱業博物館で行います。詳細は
本誌2頁の案内をご覧ください。

東日本大震災の義援金募金につきましては、150
名の皆様から1,029,219円の浄財を賜り、38名の被
災された皆様に義援金として送らせて頂きまし
た。有難うございました。

最近の新聞記事に「脱原発、過半が望む」とあり
ました。これは2030年時点の原発依存度を調べ
た結果、原発比率0%と答えたのが70%近くあり
ました。これを実現するには代替エネルギー源、
温暖化対策、経済問題など多くの課題があります。
代替エネルギー源には風力発電や太陽光発電な
どの再生可能エネルギーと火力発電等がありま
すが、再生可能エネルギーには多くの課題が残さ
れております。当面は火力発電が主流とならざる
を得ません。これに対する燃料として天然ガスが
あります。

最近、シェールガスが話題になっております。
これはシェール(頁岩)層から採取されるガスで、
従来のガス田ではない場所で、シェール層を人工
的に破壊してガスを生産することから、非在来型
天然ガス資源と呼ばれております。

ここで世界の天然ガスの埋蔵量はどの位かと云
いますと、色々な数字が出ておりますが一例を申
し述べますと、在来型の天然ガスの確認可採埋蔵
量から計算した可採年数は60年と云われており
ます。これに対し非在来型の可採年数は100年を
超すと云われており、これらを含めると少なく
とも160年を超えるのは確実と云われております。
このことから天然ガス価格の引き下げと火力発電
の燃料としての利用が期待されております。しか
しながら火力発電の燃料は輸入に頼らなければな
らないこと、これは代わりません。日頃の節電が大
切である、と云うことでしょうか。

北光会は皆様の会費で維持されております。
会費納入率の向上にご協力下さい。

会長便り153

作者：事務局管理者

2012年 12月 05日(水曜日) 16:28 -
